

琉球諸語・沖縄語のモダリティの分類：日本語の確認要求文と比較して

崎原 正志 mashi_s@okinawa-ct.ac.jp



所属学会・協会：	沖縄言語研究センター、琉球アジア社会文化研究会、やんばる学研究会、沖縄外国文学会、日本語文法学会、日本語学会。
キーワード：	記述文法（音韻・形態・構文論）、琉球語学、日本語学、危機言語、国頭語、沖縄語

●はじめに

- ① モダリティとは？ 文全体がさし示す意味・機能、あるいは目的のことを言います。大きく次の3つに分けられます：
1. **叙述文**(平叙文とも言う)：主語の人称に制限はなく、話し手が認識あるいは評価した出来事を聞き手に述べ伝える文。
例) a.ンカシヌ ウチナーヌ スークワンドウ ナトーイビール(昔の沖縄の習慣となっています)。(認識)
b.ナナケーンナー カンシ ウコー チュフィラナー ウサギーン(7度ずつこうして線香1片ずつささげる)。(認識)
c.アマヌ トーホー マーサイビーン(あそこの豆腐は美味しいです)。(評価)
d.トー アマンカイ アカヤーヌ アシエー(ほら、あそこに赤い家があるだろう?)。(前置き)
e.ミートウ ナラヤーンディ イタシエー(夫婦になろうって言っただろう)。(働きかけ)
 2. **実行文**(命令文とも言う)：主語に必ず二人称を含むという制限があり、動作の実行を仕向けたり、促したりする文。
例) a.ウリ ムッチ イケー(それを持って行け)。(命令)(あるいは許可) *主語は聞き手=二人称。
b.イチメー ワンニンカイ ウミシエービレー(一枚、私に売ってください)。(命令)(あるいは依頼) *同上。
c.トー マジュン クサ カイガ イカ(さあ一緒に草を刈りに行こう)。(勧誘) *主語は話し手と聞き手=一・二人称。
 3. **質問文**(疑問文とも言う)：話し手が聞き手に問いかけて、聞き手から情報を聞き出す文。
例) a.ボージャー イーリムノー コーティ メンソーチータイ?(子どものおもちゃは買ってきてくれましたか?)
b.ニジューユッカヌ ウガミンディシエー チャヌフージー エービーガ?(24日の拌みというのはどのようなものですか?)
c.ハワイリヨコー デームン。ヤーン イチュラヤー?(ハワイ旅行だもの。お前も行くだろう?)

●問題点

- ② 日本語では次のような「だろう」や「じゃないか」を用いた文を「確認要求」と呼び、個別に分類していますが、実際には、叙述文や質問文が混在しているので、上の叙述文か質問文のいずれかに分類できます。
- 1.「待ったでしょう、随分？」「いや、それほどでもない」(三宅 2012: 30) ⇒ 質問文
 - 2.「お姉ちゃん、会いたいんじゃない。今井さんと、すっごく」(同上: 31) ⇒ 質問文
 - 3.「あのね、駅の地下街にね、『テイク』ってブティックがあるでしょ」「うん、ある」(同上: 30) ⇒ 叙述文
 - 4.「高木？」「ホラ東光大学のボクシング同好会の高木、大学の時に、よく試合をしたじゃないか？」(同上: 32) ⇒ 叙述文

●結論

- ③ ②の1.および2.の用例は、日本語では「知識確認の要求」と呼ばれていますが(三宅 2012)、知識を確認するというよりは、実際には聞き手に尋ねて情報を聞き出す文であるため、一種の質問文(念押し的な質問)に分類できます。沖縄語の用例では、①の3.のc.の用例に相当します。文末にラヤーという形式を伴うのが特徴です。②の3.および4.の用例は、日本語では「命題確認の要求」と呼ばれていますが(三宅 2012)、実際には何も要求したり、尋ねたりしてはいません。話し手が認識したことを述べ伝えている叙述文です。

補足すると、②の3.は「『テイク』というブティックがある」ということを述べているだけです。それを伝えて、別の出来事について話を広げる「前置き」の文です。沖縄語では①の1.のd.に相当します。②の4.は「よく試合をした」ということを述べているだけです。「よく試合をした」ことを聞き手が忘れていたため、思い出させようと「働きかけ」をしています。沖縄語では①のe.に相当します。前置きや働きかけの叙述文では、沖縄語では文末にシェーという形式(活用語尾)を伴い、形式で区別します。

このように、沖縄語のモダリティ研究の結果から、日本語のモダリティ研究の課題を見つけることができます。沖縄語を記録し、分析することは、言語の記録保存に役立つだけでなく、沖縄語や日本語の文法研究や分析にも寄与することができます。

- 引用文献 崎原正志(2017)『琉球語沖縄首里方言のモダリティ:叙述・実行・質問のモダリティを中心に』平成29年度博士論文, 琉球大学大学院人文社会科学部研究科./ 日本放送協会(編)(1972)『全国方言資料』第10巻./三宅知宏・高木千恵・松丸真大(2012)「確認要求的表現と対照言語学」『日本語文法学会第13回大会発表予稿集』pp.29-35, 日本語文法学会。